



**「小規模の現場でも 1~2 割の効果が様々な面で得られるんです。
舗装作業のあらゆる規模と工程に対応した IT 施工システムの構築を目指します。」**

中規模の道路拡幅工事にセットアップの短い TS マシンコントロールを適用！

大林道路（株）は、道路建設を基軸として空港・港湾・通信情報施設などの整備を得意とする大手舗装会社である。

今回、マシンコントロールを導入した現場は路線長 1km (8,000 平米) の道路新設拡幅工事となる。「現場としては決して大きくないこの工事にマシンコントロールシステムを適用しても 1~2 割の効果は得られる」と工務部機械センターの阿部氏は語る。大林道路では 10,000 平米以上の大規模現場では mmGPS をセンサーとしたマシンコントロールシステムを採用し、それ以下の中・小規模現場では TS をセンサーとしたマシンコントロールシステムを利用している。大規模現場では複数

台の重機が同時に稼動するため GPS マシンコントロールが有利であり、中・小規模の現場ではセットアップ時間の短い TS マシンコントロールシステムが有利との判断に基づき現場の規模と環境に合わせてセンサーを選定。5,000 平米以下のコインパーキング程度の造成現場でも十分に効果が見込めると自信をうかがわせた。

また、阿部氏はマシンコントロールによる効果が多岐に渡るとも指摘する。「最も重要な特徴は精度の安定。安定した仕上げ精度が作業や材料費の無駄を省き、人件費や材料費の省力化はコスト面で大きな効果が得られる。」更には、「精度が安定しているということは安全面でも大きな効果が得られる。」と言う。それは敷き均し回数が大幅に削減できることにより、重機の反復作業が減り最も事故の危険が高いバックの動作を減らすことが安全面の向上に大きく貢献するためだ。

マシンコントロールの活用が広まる大林道路では現場から TS アスファルトフィニッシャーシステムやスリップフォームのシステムの導入要求があがっているという。「今後目指してい



るのは舗装作業のあらゆる規模と作業工程に対応した IT 施工システムの構築。今後は地方の中・小規模現場でもマシンコントロールを採用する機会が増加するため、トプコンのより一層の迅速なサポートが必要となる。その為にもお互いの協力関係をさらに強化していきたい。」と大林道路の IT 施工に対する情熱はあくまで貪欲だ。



大林道路株式会社 工務部機械センター 阿部 氏

